

第229号

まちのくすりやさん

今回のおはなし

「脳脊髄液減少症」

「最新たばこ情報」



脳脊髄液減少症

交通事故やスポーツに伴う外傷などがきっかけで頭痛やめまいといった症状が出るのが「脳脊髄液減少症」です。脳や脊髄を包む硬膜に裂け目ができ、内部の脳脊髄液（髄液）が漏れて起こることが多いのですが、原因がはっきりしない場合もあります。

外部の衝撃から守るため、脳と脊髄は、髄液の中に浮かんでいます。それを包むのが硬膜です。1日約0.5L産生される髄液は、脳や脊髄を循環して吸収され、一定量が保たれています。

しかし、髄液が何らかの原因で減ると、浮力が減って脳の位置が下がり、周囲の神経や血管が引っ張られて様々な症状が出るとされています。

「脳脊髄液漏出症」とも呼ばれています。

髄液が減る主な原因は、外傷で硬膜に裂け目ができることで漏れ出すことです。交通事故やスポーツに伴う頭や体への衝撃、階段からの転落などが多いです。腰椎穿刺（せんし）などの医療行為に伴うものや出産もあります。

約9割の患者に見られるのが「起立性頭痛」です。立ったり座ったりすると数分～数時間で頭痛が起きます。倦怠感、めまい、耳鳴りなどを伴うこともあります。

診断には、MRI や薬剤を入れた髄液の流れを画像装置で見る「脳槽シンチグラフィ」などの検査をします。

画像で漏出部位を特定できたり、おおむね半年以上が過ぎて慢性化している場合は、「ブラッドパッチ（硬膜外自家血注入）」を選択します。2016年に保険適用された治療法で、患者自身の血液を漏出部位に注入して、血液を凝固作用で裂け目をふさぎます。実施後、1～2週間の安静を保ち、3～6か月ほど経過観察します。

■脳脊髄液減少症

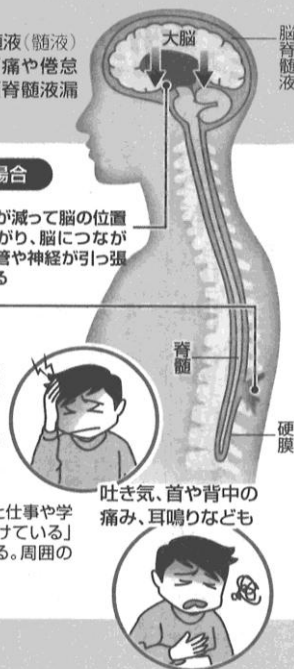
脳と脊髄を保護する脳脊髄液（髄液）が何らかの理由で減り、頭痛や倦怠感、めまいなどが出る。「脳脊髄液漏出症」とも呼ぶ

外傷が原因の場合

- 1 硬膜が破れて髄液が漏れる
- 2 髄液が減って脳の位置が下がり、脳につながる血管や神経が引っ張られる

3 様々な症状が起きる

- ★ 立ったり、座ったりすると頭が痛む「起立性頭痛」が9割に出る。横になると改善
- ★ 起立性調節障害やコロナ後遺症と症状が似ている。初期での診断は難しい
- ★ 疲れやすくなる。悪化すると仕事や学校を休みがちになる。「怠けている」「不登校」などと誤解される。周囲の理解が必要!



■主な原因

外傷

交通事故、転倒、スポーツでのけが

医療行為

腰椎穿刺

不明（特発性）

全体の2～3割を占める

その他

髄液産生量の低下、吸収量の増加、出産

■検査・治療法

まずMRI検査を実施

脳槽シンチグラフィ

薬剤を髄液に入れ、特殊な画像装置で流れを見る

髄液が漏れた箇所を特定

保存的治療

- ・1日22～23時間の安静を2週間程度保つ
- ・1日1～2%の水分を補給

ブラッドパッチ (硬膜外自家血注入)



- ・自分の血液を注入。血が固まって漏れを止める
- ・治療後は1～2週間の安静を保ち、3～6か月程度、経過観察する

最新たばこ情報

喫煙しているたばこ商品

現在習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品の種類は、「紙巻たばこ」の割合が男性 69.7%、女性 63.2%であり、「加熱式たばこ」の割合が男性 38.5%、女性 42.3%です。

たばこ製品の組合せについて、「紙巻たばこのみ」、「加熱式たばこのみ」、「紙巻たばこ及び加熱式たばこ」の割合は、男性では、60.5%、29.2%、9.2%であり、女性では、56.2%、35.3%、7.0%です。

外国たばこ

1987(昭和 62) 年、外国たばこの輸入関税が撤廃されてから、輸入たばこの価格は国産たばこ並みに下がり入手しやすくなりました。輸入たばこの販売本数は順調に伸びており、現在シェア(総販売量に占める輸入たばこの割合)は 33%を超えています。その背景には、一部のたばこ銘柄の国内ライセンス生産販売契約が終了になったことにより、外国紙巻たばこ販売数量が前年と比べ、20%アップしていることが挙げられます。



まだまだ暑い日が続きます。こまめに、水分補給や休養を取るようして下さい！！

(一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1 - 2 - 5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金：10～15 時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>